

【大津地域】

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み

【R3 度取組項目】

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域が目差すべき姿】 上架漁船の防災減災対策を実施し、地震津波災害に強く、安心、安全な操業体制の構築</p> <p>【目指す姿との対応】 船揚場の嵩上げにより L1 津波対応に実現的目処がつき、上部コンクリート施工の完成が目前であり、残る漁船修理施設整備へ向けた対応が必要</p>	<p>【取組の様子】</p>  <p>船揚場周辺整備状況と漁船修理施設配置</p>  <p>津波による浸水被害(2011. 3. 11 赤囲みが漁船修理施設)</p>  <p>盛土整地 (2021. 1)</p>
取組により期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> 船揚場を嵩上げすることにより、地震、津波に強い漁港となり、漁船修理施設の高台への整備により、（仮に被災しても）早期の復旧が図られ、持続的漁業生産が可能となる 	
現状における取組実施の背景	<ul style="list-style-type: none"> H23. 3. 11 の東北地方太平洋沖地震に伴う津波により、上架漁船流出等の被害発生し、これを機に漁港整備長期計画に「防災・減災対策」を盛り込み計画変更 変更後計画においては「船揚場の嵩上げ」が主体となる漁港地域 BCP も策定し、災害に強い漁港、生産体制の構築に取り組んでいる 漁港施設以外においても、（今後も被災した漁船の）早期復旧等による持続的な生産体制の維持のため「漁船修理施設」を嵩上げ後の船揚場隣地に整備することで、安心した操業体制を構築することを目指している 	
取組場所		
(2) 取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	<ul style="list-style-type: none"> 漁船修理施設整備に向け、底地の嵩上げに関して地元振興局や関係機関と嵩上げを可能とする補助事業等を模索 帯広開発建設部池田河川事業所で実施集の河川改修事業残土を受入れ、一定期間静置することで、施設用地の嵩上げをはかることとし、R3 年 1 月より、残土受入開始 R3 年度においては土砂の静置期間として、施設整備計画を進めた 	
(3) 効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> 嵩上げに必要な土量の確保が可能となる（R3. 2） 施設整備を具体的に検討しようとしたが、赤潮対応に追われ検討できていない 	
反省点	<ul style="list-style-type: none"> 受入残土を施設用地へ造成するには静置期間が必要 施設整備を具体的に検討しようとしたが、赤潮対応に追われ検討できていない 	
(4) 取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	<ul style="list-style-type: none"> 当面は漁船修理施設の嵩上げ整備を集中的に検討 当該漁船修理施設は船揚場嵩上げ整備の全面供用開始に併せるべく協議中 赤潮対応も一定程度目処がついてきており、次年度は施設の本格検討実施 	
取組の実施に必要なもの		

【大津地域】

【R3 度取組項目】

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域が目差すべき姿】 大津港大漁まつりなどの継続実施による都市交流・観光の振興</p> <p>【目指す姿との対応】 都市交流・観光、情報発信</p> <p>新型コロナウイルス感染防止対応により中止、新たな取り組みである観光拠点等での物販に向け製品等を準備したが、地元向けに販売</p>	<p>取組場所</p>  <p>【取組の様子】</p>   
現状における取組実施の背景		
取組により期待する効果		
(2) 取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	<p>(秋サケ直売) ・コロナ対応を実施して直売を実施</p> <p>(秋サケ飯寿司) ・従来から実施してきた「サケ飯寿司」の販売は、リピーターが中心であり継続実施している ・量販店との連携により実施していた年末販売は中止となったものの、上記の人気から物販用の飯寿司に関しても地元を中心に完売した</p>	
(3) 効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	・これまで実施してきた直売等のイベント開催は難しくなったものの「リピーター」の存在を再認識することができた	
反省点		
(4) 取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	・コロナ以降においても、従来型とは異なる形式での開催が予測されているが、一定程度の認知が進んでいることを踏まえ、継続的に開催すべきか	
取組の実施に必要なもの		

新設されたジュエリーハウス（冬季の観光拠点施設）での観光物販も実施予定である（写真はコロナ前の H31.1 のもの）